

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3107634号
(U3107634)

(45) 発行日 平成17年2月3日(2005.2.3)

(24) 登録日 平成16年12月22日(2004.12.22)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 3 B 23/02

F I

A 4 3 B 23/02 1 O 3

A 4 3 B 23/02 1 O 6

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2004-2678 (U2004-2678)
(22) 出願日 平成16年4月12日(2004.4.12)(73) 実用新案権者 504186817
宗倉 久美子
福井県武生市大虫本町4-23
(72) 考案者 宗倉 久美子
福井県武生市大虫本町4-23

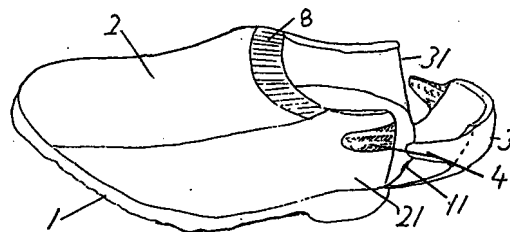
(54) 【考案の名称】 履き易いシューズ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】従来、障害者や高齢者用に履きやすく脱ぎやすいシューズとして、甲を出来るだけ広く開口させて両甲披縁部をベルトファスナーで緊締させるか、又は、特殊なシューズとして踵部を脚部まで高くして脚に緊締さすシューズ等があった。しかし、健康な人でも煩わしく、時間を要し、時には踵を押し潰して履いている人もみられる。特に、身体の不自由な人や高齢者、幼児は苦勞されている。そこで、シューズの踵部を開閉可能にして履きやすく脱ぎやすく、しかも、緊締力があって歩行する際には抜けない、障害者や高齢者及び幼児用に最適なシューズを提供する。

【解決手段】底部1に足指から足背までを覆う甲被2と踵部を覆う踵被3とから成るシューズであって、前記踵被が足底部を基点11として少なくとも後方に折れる構造にし、該踵被を前記甲被の両側に緊締さすことを特徴とした履き易いシューズ。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

底部に足指から足背までを覆う甲被と踵部を覆う踵被とから成るシューズにおいて、前記踵被が足底部を基点として少なくとも後方に折れる構造にし、該踵被を前記甲被の両側に緊締さすことを特徴とした履き易いシューズ。

【請求項 2】

踵被の下部を上部より狭くし、該踵被の両側端と甲被の両側とをマジックテープで緊締することを特徴とした請求項 1 記載の履き易いシューズ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本考案はシューズの踵被を容易に開閉できる構造にし、障害者や高齢者及び幼児が容易に履き脱ぎ出来るシューズに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、障害者や高齢者用に履きやすく脱ぎやすいシューズとして、甲を出来るだけ広く開口させて両甲被縁部をマジックテープで緊締させるか、又は、特殊なシューズとして踵部を脚部まで高くして脚に緊締さすシューズ等があった。

【特許文献 1】 特開 2001-104001 号

【特許文献 2】 意匠登録第 1147515 号

20

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

上述のようなシューズは甲部を広く開口する構造で、これを履く際には、シューズの甲の開口部を広くして踵部を持ち上げながら上方から足先（指先）、足背へと入れているのが一般的である。

しかし、健康な人でも煩わしく、時間を要し、時には踵を押し潰して履いている人もみられる。特に、身体の不自由な人や高齢者、幼児は苦勞されている。

考案者は、踵部に突起部が無いスリッパのようにシューズの後部から、滑るように足先、足背と徐々に入れる方法がより履きやすく、且つ、脱ぎやすく、又、介助者も履かせやすく脱がせやすいことが、多数の実験の結果判明した。

30

そこで、シューズの踵部を開閉可能にして履きやすく脱ぎやすく、しかも、緊締力があって歩行する際には抜けない、障害者や高齢者及び幼児用に最適なシューズを提供する。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本考案明のシューズの踵被緊締構造を図 1～3 に基づき説明する。

底部（1）と甲被（2）と踵部の踵被（3）とから成るシューズであって、踵部の踵被（3）が底部の基点（11）から少なくとも後方に折返し可能にし、該踵被（3）と甲被側部（21）とでマジックテープ（4）で係脱にして緊締するシューズである。

40

【0005】

本考案のシューズは踵被の構造を特定するものであった、甲部の緊締構造を特定するものではなく、又、甲や踵の材質等を特定するものでもない。

そこで、踵部の構造をより詳細に説明する。

開閉可能な踵被（3）の形状は上部を広く下部（底部との基点）を狭く切り込むと、折返しが容易で踵の開口が広がるので好ましい。

又、切り込んだ踵部（31）から雨水が侵入しないようにジャバラ（5）を取り付けることも好ましい。

更に、マジックテープは図 1 に示す如く、引っ張りには強く、剥離するには弱くするために、スリット状に取り付けた。

50

但し、マジックテープの代わりに図 2 の様に嵌合式のボタン (6) を使用しても良いし、又、図 3 の様にバンド (とじ帯) (7) を使用してもよいが、障害者、高齢者及び幼児用にはマジックテープが最適である。

【考案の効果】

【0006】

本考案のシューズは踵部を広く開閉可能にしたので、非常に履きやすく脱ぎやすいので、障害者や高齢者及び幼児には最適で、また、介助者にとっても労せずした履脱ができるシューズである。

また、老人の場合は靴下を何枚も重ねて履く事が多く、従来のシューズでは煩わしく困難であるが、靴の踵部が折れるので、スムーズに履くことが出来る。

更に、足のサイズが少々変わっても踵部が前後倒するので緊締力を調整すれば履くことが可能で、成長の速い幼児向けには最適である。

【考案を実施するための最良の形態】

【0007】

本考案のシューズの実施例を図に基づき説明する。

ゴム製の底部 (1) に布製の甲被 (2) を逢着し、踵部を布製で上部を広く下部を狭くして踵被 (3) を構成し、前後に折返し可能に底部の基点 (11) に逢着した。

更に、緊締手段として踵被 (3) の両サイドにマジックテープ (4) を取り付け、両甲被側部 (21) で係脱させるようにした。

又、マジックテープを剥離する力の弱い人用にマジックテープの着脱部をスリット状にし、引っ張りには強く、剥離には弱くした。

又、甲部の緊締手段として伸縮製ベルト (8) を取り付けた。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】 本考案の実施例で踵被のマジックテープで緊締する斜視図です。

【図 3】 本考案の実施例で踵被を嵌合ボタンで緊締する斜視図です。

【図 4】 本考案の実施例で踵被をバンドで緊締する斜視図です。

【符号の説明】

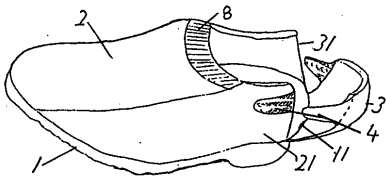
【0009】

- 1 シューズの底部
- 11 底部の基点
- 2 甲被
- 21 甲被側面
- 3 踵被
- 31 踵被切り込み部
- 4 マジックテープ
- 5 ジャバラ
- 6 嵌合ボタン
- 7 バンド (とじ帯)
- 8 伸縮製ベルト

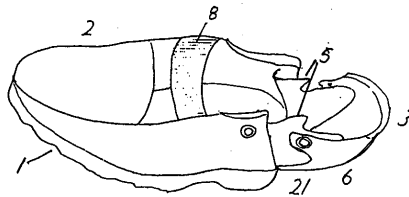
30

40

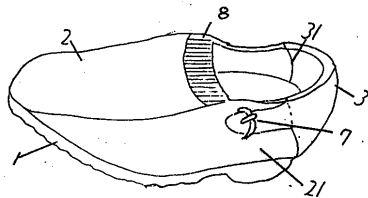
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【手続補正書】

【提出日】平成16年7月12日(2004.7.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

【図 1】 本考案の実施例で踵被のマジックテープで緊締する斜視図です。

【図 2】 本考案の実施例で踵被を嵌合ボタンで緊締する斜視図です。

【図 3】 本考案の実施例で踵被をバンドで緊締する斜視図です。

【手続補正書】

【提出日】平成16年10月20日(2004.10.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

底部に足指から足背まで覆う甲被と踵部を覆う踵被とから成るシューズにおいて、前記踵被が底部を基点として少なくとも後方に折れる構造にし、該踵被を前記甲被の両側に緊締することを特徴とした履き易いシューズ。

【請求項 2】

踵被の下部を上部より狭くし、該踵被の両側端と甲被の両側とを面ファスナーで緊締す

ることを特徴とした請求項 1 記載の履き易いシューズ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案はシューズの踵被を容易に開閉できる構造にし、障害者や高齢者及び幼児が容易に履き脱ぎ出来るシューズに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、障害者や高齢者用に履きやすく脱ぎやすいシューズとして、甲を出来るだけ広く開口させて両甲被縁部を面ファスナーで緊締させるか、又は、特殊なシューズとして踵部を脚部まで高くして脚に緊締さすシューズ等があった。

【特許文献 1】 特開 2001-104001 号公報

【特許文献 2】 意匠登録第 1147515 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

上記のような従来のシューズは甲部を広く開口する構造で、これを履く際には、シューズの甲の開口部を広くして踵部を持ち上げながら上方から足先（指先）、足背へと入れるのが一般的である。

しかし、健康な人には煩わしく、時間を要し、時には踵を押し潰して履いている人もみられる。特に、身体の不自由な人や高齢者、幼児は苦勞されている。

考案者は、踵部に突起部が無いスリッパのようなシューズの後部から、滑るように足先、足背と徐々に入れる方法がより履きやすく、且つ、脱ぎやすく、又、介護者も履かせやすく脱がせやすいことが、多数の実験の結果判明した。

そこで、シューズの踵部を開閉可能にして履きやすく脱ぎやすく、しかも、緊締力がある歩行する際には抜けない、障害者や高齢者及び幼児用に最適なシューズを提供する。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本考案のシューズの踵被緊締構造を図 1～3 に基づき説明する。

底部（1）に足指から足背まで覆う甲被（2）と踵部を覆う踵被（3）とから成るシューズであって、踵部の踵被（3）が底部（1）の基点（11）から少なくとも後方に折返し可能にし、該踵被（3）と甲被側部（21）とを面ファスナー（4）等で係脱可能にして、且つ、緊締するシューズである。

【0005】

本考案のシューズは踵被の構造を特定するものであって、甲部の緊締構造を特定するものではなく、又、甲や踵の材質等を特定するものでもない。

そこで、踵部の構造をより詳細に説明する。

開閉可能な踵被（3）の形状は上部を広く下部（底部との基点）を狭く切り込むと、折返しが容易で踵の開口が広がるので好ましい。

又、切り込んだ踵部（31）から雨水が浸入しないようにジャバラ（5）を取り付けることも好ましい。

更に、面ファスナーは図 1 に示す如く、引っ張りには強く、剥離するには弱くするために、スリット状に取り付けた。

但し、面ファスナーの代わりに図 2 のように嵌合式のボタン（6）を使用してもよいし

、又、図 3 のようにバンド（とじ紐）（7）を使用してもよいが、障害者、高齢者及び幼児用に面ファスナーが最適である。

【考案の効果】

【0006】

本考案のシューズは踵部を広く開閉可能にしたので、非常に履きやすいので、障害者や高齢者及び幼児には最適で、又、介助者にとっても労せずに履脱ができるシューズである。

又、老人の場合は靴下を何枚も重ねて履くことが多く、従来のシューズでは煩わしく困難であるが、本考案のシューズは靴の踵部が折れるので、スムーズに履くことができる。

更に、足のサイズが少々変わっても踵部が前後に倒せるので緊締力が調整すれば履くことが可能で、成長の速い幼児向けにも最適である。

【考案を実施するための最良の形態】

【0007】

本考案のシューズの実施例を図に基づき説明する。

ゴム製の底部（1）に布製の甲被（2）を縫着し、踵部を布製で上部を広く下部を狭くして踵被（3）を構成し、前後に折返し可能に底部の基点（11）に縫着した。

又、面ファスナーは剥離する力の弱い人のために、面ファスナーをスリット状にし、引っ張りには強く、剥離には弱くした。

又、甲部の緊締手段として伸縮性ベルト（8）を取り付けた。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】 本考案の実施例で踵被を面ファスナーで緊締する斜視図です。

【図 2】 本考案の実施例で踵被を嵌合ボタンで緊締する斜視図です。

【図 3】 本考案の実施例で踵被をバンドで緊締する斜視図です。

【符号の説明】

【0009】

- 1 シューズの底部
- 11 底部の基点
- 2 甲被
- 21 甲被側面
- 3 踵被
- 31 踵被の切り込み部
- 4 面ファスナー
- 5 ジャバラ
- 6 嵌合ボタン
- 7 バンド（とじ紐）
- 8 伸縮性ベルト